

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	24-025	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
An observational cohort study of alcohol use and cognitive difficulties among post-9/11 veterans with and without TBI and PTSD 外傷性脳損傷 (TBI) および心的外傷後ストレス障害 (PTSD) を有する 9/11 以降の退役軍人における飲酒と認知障害の観察コホート研究		
<b>執筆者</b>		
May AC, Hendrickson RC, Pagulayan KF, Schindler AG.		
<b>掲載誌</b>		
Drug Alcohol Depend. 2024 Oct 1;263:112419. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2024.112419.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、認知障害、外傷性脳損傷 (TBI)、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、退役軍人		39173220
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 軍の退役軍人では、外傷性脳損傷 (TBI)、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、および飲酒の頻度が多く、それぞれ独立して認知障害と関連しているが、これらの要因が組み合わさった場合の影響はあまり知られていない。本研究の目的は、TBI および PTSD を有する退役軍人における飲酒パターンと認知診断の関連性を調査することである。		
<b>方法：</b> 電子健康記録データを用いて 193,663 人の退役軍人を対象に、自己報告による飲酒障害識別テスト C スコアに基づき 3 つの飲酒推移群 (常に低い、最初は高いが低くなる、最初は中程度で高くなる) に分類した。人口統計学的要因および併存疾患を調整し、Cox 比例ハザードモデルにて、飲酒パターン、TBI、PTSD および認知診断リスクの関連性を検討した。		
<b>結果：</b> 最初は高いが低くなる飲酒 (Hazard Ratio(HR) = 1.21, 95%信頼区間(CI): 1.11-1.31) および最初は中程度で高くなる飲酒 (HR = 1.42, 95% CI: 1.33-1.51) の退役軍人は、常に低い飲酒の退役軍人と比較して、認知診断のリスクが有意に高かった。また、TBI (HR = 5.40, 95% CI: 5.06-5.76) および PTSD (HR = 2.42, 95% CI: 2.25-2.61) も独立して認知診断リスクの増加と関連した。		
<b>結論：</b> TBI および PTSD を有する退役軍人において、飲酒レベルが高い場合に、たとえその後減少しても、認知診断のリスクが増加することが示された。認知障害のリスクが高い個人を特定するために、長期的な飲酒パターンを考慮すべきである。		